2027年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年10月29日

上場会社名　日本デコラックス株式会社　　上場取引所　名
コード番号　7950　URL https://www.decoluxe.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）木村　重夫
問合せ先責任者（役職名）経理部長　（氏名）近藤　直也　TEL 0587-93-2411
半期報告書提出予定日　2026年11月5日　配当支払開始予定日　2026年12月2日
決算補足説明資料作成の有無　：　無
決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第2四半期（中間期）の業績（2026年4月1日～2026年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	3,072	1.5	380	25.3	473	34.1	380	55.7
2026年3月期中間期	3,025	△0.1	303	△4.8	353	1.8	244	1.9

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	488.01	―
2026年3月期中間期	313.39	―

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	20,062	16,879	84.1
2026年3月期	18,724	16,339	87.3

（参考）自己資本　2027年3月期中間期　16,879百万円　2026年3月期　16,339百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	150.00	―	220.00	370.00
2027年3月期	―	150.00			
2027年3月期（予想）			―	220.00	370.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年 3月期の業績予想（2026年 4月 1日～2027年 3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,400	2.5	600	△8.0	730	△4.7	1,630	217.8	2,090.75

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

(注) 詳細は、添付資料P．5「2．中間財務諸表及び主な注記 (3) 中間財務諸表に関する注記事項 (中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期中間期	893,000 株	2026年3月期	893,000 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	113,382 株	2026年3月期	113,372 株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2027年3月期中間期	779,625 株	2026年3月期中間期	779,628 株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P．2「1．経営成績等の概況　(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 2
２．中間財務諸表及び主な注記 …… 3
（１）中間貸借対照表 …… 3
（２）中間損益計算書 …… 4
（３）中間財務諸表に関する注記事項 …… 5
（継続企業の前提に関する注記） …… 5
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 5
（中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 5
３．補足情報 …… 6

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、原材料価格やエネルギー価格の動向、為替相場の変動に加え、米国の通商政策の動向や中東情勢をはじめとする地政学的リスクの高まりなど、企業を取り巻く経営環境は依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社のセグメント別の業績は、以下の通りとなりました。

＜建築材料事業＞

高圧メラミン化粧板は、オフィス市場向けの需要が堅調に推移したものの、トイレ市場及び店舗市場では、中東情勢を背景とした工事費の上昇及び工事遅延により物件数が減少したことから、売上が減少しました。

不燃メラミン化粧板は、中東情勢を背景とした工事費の上昇及び工事遅延により物件数が減少したものの、原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。

その結果、化粧板製品の売上高は1,968百万円（前年同中間期比96.7%）となりました。

電子部品業界向け製品は、パソコン向け需要が回復基調で推移したことに加え、車載関連需要が回復したこと、また、ＡＩ関連及び通信機器関連の需要増加や原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。

その結果、電子部品業界向け製品の売上高は522百万円（前年同中間期比123.5%）となりました。

ケミカルアンカー製品は、建設コスト上昇に伴う物件数の減少など市況が不安定な状況であるものの、中東情勢を背景とした原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。

その結果、ケミカルアンカー製品の売上高は356百万円（前年同中間期比105.2%）となりました。

これらの結果、その他の売上高も合わせて、建築材料事業セグメントの売上高は2,870百万円（前年同中間期比101.6%）となりました。

＜不動産事業＞

不動産事業は、堅調に推移し売上は増加しました。

その結果、不動産事業セグメントの売上高は201百万円（前年同中間期比100.4%）となりました。

全社の業績といたしましては、売上高は3,072百万円（前年同中間期比101.5%）、営業利益は380百万円（前年同中間期比125.3%）、経常利益は473百万円（前年同中間期比134.1%）、中間純利益は380百万円（前年同中間期比155.7%）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

当中間会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて1,337百万円増加し20,062百万円となりました。これは主に、電子記録債権及び有価証券が減少したものの、現金及び預金が増加したことに加え、2026年７月31日付「固定資産の譲渡及び取得並びに業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表した固定資産の取得に関連し、手付金の支払い等によりその他の流動資産が増加したこと、並びに投資有価証券が増加したこと等によるものであります。負債は、前事業年度末に比べ798百万円増加し3,183百万円となりました。これは主に、その他の固定負債が減少したものの、固定資産の譲渡に関連する手付金の受領等によりその他の流動負債が増加したこと並びに繰延税金負債が増加したこと等によるものであります。また、純資産は前事業年度末に比べて539百万円増加し16,879百万円となりました。これは主に、期末配当金171百万円を支払ったものの、中間純利益の計上により利益剰余金が増加したこと及びその他有価証券評価差額金が331百万円増加したこと等によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年７月31日の「2027年３月期 第１四半期決算短信（非連結）」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

２．中間財務諸表及び主な注記

（１）中間貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2026年３月31日）	当中間会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,835,052	3,174,394
受取手形及び売掛金	757,061	670,066
電子記録債権	899,882	763,461
有価証券	656,365	423,163
商品及び製品	362,516	482,436
仕掛品	78,309	72,909
原材料及び貯蔵品	475,279	527,629
その他	128,080	872,891
流動資産合計	6,192,547	6,986,952
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,232,121	2,227,520
土地	5,099,587	5,085,270
その他（純額）	606,670	775,766
有形固定資産合計	7,938,378	8,088,556
無形固定資産	24,305	21,720
投資その他の資産		
投資有価証券	4,251,938	4,751,348
その他	317,583	214,109
投資その他の資産合計	4,569,521	4,965,457
固定資産合計	12,532,205	13,075,734
資産合計	18,724,753	20,062,686
負債の部		
流動負債		
買掛金	264,880	264,705
電子記録債務	585,883	573,328
未払法人税等	145,080	185,633
引当金	61,897	87,287
その他	398,960	1,093,932
流動負債合計	1,456,701	2,204,888
固定負債		
役員退職慰労引当金	413,474	420,590
繰延税金負債	305,408	457,623
その他	209,583	100,136
固定負債合計	928,466	978,350
負債合計	2,385,168	3,183,238
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,515,383	2,515,383
資本剰余金	2,305,533	2,305,533
利益剰余金	11,339,907	11,548,856
自己株式	△582,819	△582,911
株主資本合計	15,578,004	15,786,861
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	761,580	1,092,587
評価・換算差額等合計	761,580	1,092,587
純資産合計	16,339,585	16,879,448
負債純資産合計	18,724,753	20,062,686

（２）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	3,025,585	3,072,141
売上原価	2,077,236	2,046,536
売上総利益	948,348	1,025,605
販売費及び一般管理費	644,705	645,023
営業利益	303,642	380,581
営業外収益		
受取利息	24,598	26,101
受取配当金	27,812	48,440
為替差益	－	14,697
その他	4,840	3,668
営業外収益合計	57,251	92,907
営業外費用		
支払利息	28	56
為替差損	7,789	－
営業外費用合計	7,817	56
経常利益	353,075	473,432
特別利益		
受取補償金	－	85,201
特別利益合計	－	85,201
特別損失		
固定資産除却損	－	3,208
特別損失合計	－	3,208
税引前中間純利益	353,075	555,426
法人税等	108,747	174,959
中間純利益	244,328	380,466

（３）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

３．補足情報

2027年３月期中間期決算短信参考資料

１.2027年３月期中間期の業績

（１）経営成績

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）		当中間会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）		前事業年度 （自　2025年４月１日 至　2026年３月31日）	
	金額	前年同中間期比（%）	金額	前年同期比（%）	金額	前年同期比（%）
売上高	3,025,585	99.9	3,072,141	101.5	6,241,889	100.5
営業利益	303,642	95.2	380,581	125.3	652,142	117.4
経常利益	353,075	101.8	473,432	134.1	766,340	122.3
中間（当期）純利益	244,328	101.9	380,466	155.7	512,931	116.7
1株当たり中間（当期）純利益	313円39銭		488円01銭		657円92銭	

（２）セグメント別売上高

	売上高			コメント
	金額（百万円）	構成比（%）	増減率（%）	
建築材料事業				
化粧板製品	1,968	64.1	△3.3	高圧メラミン化粧板は、オフィス市場向けの需要が堅調に推移したものの、トイレ市場及び店舗市場では、中東情勢を背景とした工事費の上昇及び工事遅延により物件数が減少したことから、売上が減少しました。 不燃メラミン化粧板は、中東情勢を背景とした工事費の上昇及び工事遅延により物件数が減少したものの、原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。
電子部品業界向け製品	522	17.0	23.5	電子部品業界向け製品は、パソコン向け需要が回復基調で推移したことに加え、車載関連需要が回復したこと、また、ＡＩ関連及び通信機器関連の需要増加や原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。
ケミカルアンカー製品	356	11.6	5.2	ケミカルアンカー製品は、建設コスト上昇に伴う物件数の減少など市況が不安定な状況であるものの、中東情勢を背景とした原材料等の価格高騰の一部を販売価格に転嫁したことにより、売上が増加しました。
その他	23	0.7	△16.6	
小計	2,870	93.4	1.6	
不動産事業	201	6.6	0.4	堅調に推移し売上は増加しました。
合計	3,072	100.0	1.5	

（３）業績の説明

業績につきましては、売上原価率が66.6％と2.0ポイント改善いたしました。また、販管比率が21.0％と0.3ポイント改善した結果、営業利益率は12.4％と2.4ポイント改善いたしました。

（４）設備について

工場の生産設備等に59百万円の投資を行いました。なお、当中間会計期間における減価償却費は118百万円であります。

（５）配当金について

配当金につきましては、中間配当金として150円、期末配当金220円を予定しております。

（６）財政状況について

総資産20,062百万円、純資産16,879百万円、自己資本比率84.1％であります。

２.通期の見通し

（１）経営成績予想

売上高	6,400百万円	対前期増減率	2.5％増
営業利益	600百万円	対前期増減率	8.0％減
経常利益	730百万円	対前期増減率	4.7％減
当期純利益	1,630百万円	対前期増減率	217.8％増

（２）セグメント別売上高

（単位：百万円）

	通期予想		
	金額	構成比（％）	増減率（％）
建築材料事業	6,000	93.8	2.7
不動産事業	400	6.3	△0.3
合計	6,400	100.0	2.5

（３）不動産及び設備投資について

当下半期の不動産及び設備への投資は総額6,299百万円を予定しており、その主な内容は賃貸用不動産の取得5,700百万円及び工場の生産設備等599百万円であります。

なお、通期の減価償却費として324百万円を予定しております。